

<p><b>1 学校教育目標</b></p> <p style="text-align: center;"><b>黒川だいすき、なかよくがんばる</b> ～ 郷土を愛し、周りの人を大切にする心豊かな子どもの育成をめざして～</p>	<p><b>2 本年度の重点目標</b></p> <p>(1) 児童の実態把握と個に応じた指導の充実【課題の克服・良さを伸ばす】                  (2) 基礎基本の徹底と読書活動のさらなる推進                  (3) いつでもどこでも気持ちのよい「返事」と「挨拶」ができる児童の育成                  (4) 「家読」の推進と「黒小っ子育成プラン」の一層の充実                  (5) 縦割り活動や体験活動、幼保小中連携のさらなる推進</p>
---	--

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

**3 目標・評価**

**① 学校運営**

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
学校運営	◇学校経営方針	◇学校教育目標、本年度の重点目標の周知	◇職員、児童、保護者への周知率を90%以上にする。	◇職員会議や育友会総会、学年懇談会、学校便り、学校ホームページ等で周知し、理解を求める。 ◇合言葉として語ることができるよう、学校目標を各教室等に掲示したり、学校から発行するプリントには全て書き入れたりする。		
	○危機管理	○通学路の安全点検及び安全指導 ○食物アレルギー等への対応	◇職員と保護者で通学路の安全点検を行うとともに、関係機関と連携して安全指導を行う。 ◇食物アレルギー等の実態調査を再度行い、全児童の実態把握及び対応について共通理解を図る。	◇職員で通学路の定期的な点検を行う。また、保護者から危険箇所についての情報を収集する。 ◇交通安全指導教室や校外での生活事故の防止に関する安全指導を実施する。 ◇保健調査を活用し、食物アレルギーに関する情報を収集し、個に応じた手立てを保護者と連携しながら進めていく。また、アレルギーに関する職員研修を行い、「いつでも、どこでも、だれでも」を合い言葉に、早期対応ができるようにする。		
	○幼・保・小・中連携	○幼・保・小・中連携の活性化	◇年間計画に基づいて交流を行い、相互理解に努める。	◇近隣の幼稚園やこども園との交流を深める。また、中学校校区内で小中及び小小の連携を図り、小中9ヶ年の教育の充実を図る。		
	○特色ある学校づくり	◇地域人材の活用 ◇総合的な学習の時間での取組 ◇読書活動と家読の推進	◇地域人材を活用し、特産物・歴史・文化等を学ぶ学習活動を展開することで、郷土に愛着を持ち、良さを実感できる児童90%以上を目指す。 ◇自分から進んで図書室へ行き、様々な種類の本に親しむ児童の育成を行う。	◇目的を明確にした年間計画を作成し、活動の精選を行う。 ◇学校サポーターと連携し、活動の目的・役割分担等について、事前に話し合い、価値ある体験活動を展開する。 ◇各学年の活動について引き継ぎファイルを作成し、活動の充実と精選を図る。 ◇手元に本を準備させるなど、読書がしやすい環境をつくる。 ◇「家読」への具体的な取り組み方について、保護者へ知らせる。		
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	◇教職員の連携促進 ◇業務効率化の促進	◇学校運営を組織的にを行い、業務の効率化と分散化を図ることによって、質の高い業務内容を目指すとともに個人の負担を軽減する。 ◇各担当業務の情報共有を強化する。	◇企画委員会や職員会で行事を精選し、学校全体が組織的に活動しやすい環境を作る。 ◇職員連絡会や業務上のコミュニケーションを大事にし、各業務の進捗情報を共有し、職員間のフォロー体制を強化する。		

**② 児童の実態を踏まえた学習指導の充実(西部型授業の実践、学習習慣の定着等)**

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
教育活動	●学力の向上	◇個に応じた指導の充実 ◇基礎学力の向上 ◇基礎基本の徹底 ◇活用の向上 ◇学習習慣の定着 ◇授業と家庭学習とのつながり ◇ICT利活用教育の推進	◇児童の理解の状況を把握し、個に応じた指導を行う。(習熟度学習、少人数、TT、個別の支援等) ◇学習状況の結果の分析と課題の把握を行い、授業の改善を図り、基礎基本の徹底と基礎学力の向上を図る。 ◇県や国の学習状況調査で各学年県平均・全国平均以上のポイントを目指す。 ◇授業が分かる児童90%以上を目指す。学校全体で系統表をもとに、学習習慣の定着を目指す。 ◇「自学ノート」や「家庭学習のすすめ」を活用して授業と連動した家庭学習の充実を目指す。 ◇パソコンや電子黒板等を活用した授業実践や交流の場を設定して、ICT利活用教育を進める。 ◇インターネット等の使用について、正しい使い方を指導する。	◇学習中の言動や課題の達成状況等から一人一人の児童の理解の程度を把握し、職員で情報を共有する。児童の実態に応じた指導を行い、基礎基本の徹底と基礎学力の向上を図る。 ◇プレート等を活用し、学習のめあてや解決の見通し、方法、まとめ等を明確にする。 ◇全国並びに県の学習状況調査等の分析をもとに全職員で学校の課題を共通理解し、授業を改善する。 ◇立腰指導とともに「話の聞き方」を発達段階を踏まえて継続的に指導していく。 ◇考える時間、発表する時間を確保し、学習に対する『主体性』を育成する。 ◇育友会総会・学年懇談会等で家庭との共通理解の場を設け、学校と家庭が連携して「家庭学習」の習慣化と充実を図る。 ◇各学年に応じて「自学ノート」の指導を行う。その際には、児童の学習意欲を喚起するような企画を計画的に実施する。 ◇ICTを利活用し、「見える化」を意識した授業づくりを推進する。 ◇情報モラルに関する学習会を児童や保護者に対して実施していく。また、情報モラルに関する児童の意識や態度を把握し、定期的に学校だより等で知らせ、家庭と連携した指導を行う。		

**③ 心身の健康づくりと基本的な生活・学習習慣の確実な定着**

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
教育活動	●健康・体づくり	○食育の充実 ◇基礎体力並びに運動能力の向上	◇朝食を摂る児童100%を目指す。 ◇体力向上のために計画的な場作りや多様な遊びの紹介を行い、進んで運動に親しむ児童の育成を図る。	◇栄養教諭や学校医と連携し、発達段階に応じて食育指導を計画的に実施する。また、食に関する意識を啓発するために、掲示物の工夫や食育だより等の発行を計画的に行う。 ◇県が主催する「スポーツチャレンジ」を各学級に紹介し取組を奨励する。		
	●心の教育	◇返事、あいさつ、感謝の言葉の指導の徹底 ○心の教育3セットの活用 ◇「継続」や「忍耐」の大切さを実感できる取組の充実 ◇教育相談の充実	◇心の教育3点セットである「伊万里っ子ぐさ」・「いのちの教育指導資料集」・「伊万里市童謡歌集」を活用し、豊かな心の醸成を図る。 ◇いつでもどこでも返事と挨拶ができる児童100%を目指す。 ◇地域や家庭で感謝の言葉が言える児童の育成を目指す。 ◇きまりを守り、目標に対して努力できる児童の育成を図る。 ◇様々な課題を抱える児童の理解と支援を組織で行う。また、保護者との連携を図り、児童の困り感の軽減を図る。	◇学校生活の様々な場面、道徳の授業等で心の教育3点セットの「伊万里っ子ぐさ」・「いのちの教育指導資料集」を積極的に活用する。 ◇「伊万里市童謡歌集」の曲を朝の放送や給食時、掃除の時間や下校時間等に流し、活用していく。 ◇「返事4段階」等、児童が実践しやすい指導を行う。 ◇良い行いについては賞賛し、指導が必要な場合は適切に言葉かけを行うことを全職員が共通理解し実行する。 ◇毎月第1水曜日に「教育相談連絡会・生徒指導協議会」を実施し、気にかける児童の共通理解を図り、全職員で児童の支援に努める。 ◇スクール・カウンセラーの効果的な活用を行うとともに、児童に応じた適切な支援や対応について共通理解する。また、担任だけでなく、チーム学校として児童と保護者への支援を行う。		
	●いじめの問題への対応	◇全教職員体制によるいじめの未然防止及び早期発見・早期対応	◇報告・連絡・相談体制を徹底し、組織で対応する。 ◇自尊感情を高めるとともに、自他を大切にしている心と態度を育てることで、「学校生活が楽しい」と感じる児童100%を目指す。	◇「黒川小学校いじめ防止基本方針」を周知し、「いじめ」防止に向けた組織づくりを徹底する。(第22条委員会) ◇「生活アンケート(各学期)」や月1回の「生徒指導連絡会」、毎週実施する「職員連絡会」を活用し、全職員で、いじめの早期発見・早期対応を行う。		
学校運営	◇特別支援教育の充実	◇個に応じた教育の充実	◇困り感を持つ児童を把握し、その軽減に必要な支援の在り方を探る。また、保護者との連携を充実させ、支援の充実を図る。該当児童の「学校生活に対する満足感」80%以上を目指す。	◇特別支援教育コーディネーターを中心に、校内の支援体制強化に努める。 ◇校内支援委員会を計画的に開催し、児童個々の実態把握に努め、支援の在り方について共通理解と共通実践を図る。 ◇特別支援教育(気になる子)に関する職員研修を年間3回以上行う。 ◇個別の支援計画に関しては、適時、見直しを行い、支援の充実を図る。		

**本年度の重点目標に含まれない共通評価項目(あれば記入)**

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
学校運営	◇開かれた学校づくり	◇学校情報の公開 ◇授業参観、学校行事の充実	◇学校だよりや学級通信、学校ホームページ、安心メール、図書館だより、保健だより等により、学校情報を発信する。 ◇授業参観、各種行事等への保護者の参加率を80%以上を目指し、情報を発信していくと共に、教育に関する情報交換を深めていく。	◇定期的に学校便り等を発行すると共に計画的に学校ホームページを更新する。学校行事に関しては、1か月前を目処に案内プリントを配付し、保護者の予定が立てやすいように配慮する。 ◇緊急連絡に関しては、「学校安心メール」を利用し、素早い対応を心がける。メールの送信ができない家庭には電話で対応する。地域にも可能な限り情報発信し、対応への協力を依頼する。		